

地に立つ、宙に浮く

大西由莉

庄子和宏

Stand on the Ground,

Float in the Air

Yuri Onishi

Kazuhiro Shoji



庄子和宏 title: 博割れの家 size:194x164cm 油彩・キャンバス 2020



大西由莉 title: 咲くと朽ち果てると起点と修復 size:162x162cm 油彩・キャンバス 2020

2022.

5.10 (tue.)

/

5.27(fri.)

11:00 - 17:00

休廊日

5.15 (sun.)

5.22(sun.)

油絵学科研究室 赤塚祐二

Gallery of
The Fine Art Laboratory

東京都小平市小川町 1-736 武蔵野美術大学 2号館 1階



大西由莉 title:Spielraum07 size:196x133cm 油彩・キャンバス 2020

大西由莉 | Yuri Onishi

1983年 愛知県生まれ

2008年 武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程美術専攻油絵コース修了

-Solo Exhibition-

2020年 「spielraum vol.02 / 遊動空間」 (ギャルリー東京ユマニテ bis)

2018年 「spielraum / 遊動空間」 (ギャルリー東京ユマニテ bis)

2017年 「geometric chant / キガクテキナウタ」 (ギャルリー東京ユマニテ bis)

2016年 「luminous sky」 (ギャルリー東京ユマニテ bis)

2012年 「Irisの宙、6と28の間」 (新宿眼科画廊)

2011年 「蝶の翅色はミドリ」 (新宿眼科画廊)

-Group Exhibition-

2021年 「SICF22」 EXHIBITION 部門 (スパイラルホール)

-Award-

2020年 第38回 上野の森美術館大賞展 入選

2019年 シエル美術賞 2019 入選

2019年 第37回 上野の森美術館大賞展 入選

2016年 第52回 神奈川県美術展 入選

2015年 ワンダーシード2015 入選

2011年 第6回大黒屋現代アート公募展 入選

2008年 武蔵野美術大学大学院修了制作展 優秀賞

2006年 武蔵野美術大学卒業制作展 研究室賞



大西由莉 | Web サイト



大西由莉 | Instagram アカウント



大西由莉 title: 芍薬と空間 size:53x33.3cm

油彩・キャンバス 2019

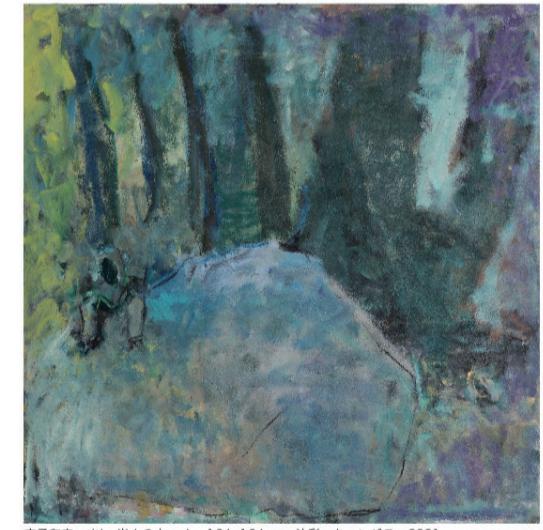
「地に立つ、宙に浮く」 - 絵画がもたらすもの -

今、世界ではコロナ禍、さらには戦争までもが起こり、我々の日常は根本から揺さぶられ続けている。揺さぶられて不安だが、一方で我々は、それらに遭遇したこと、いつの間にかこれまでとは違う感覚を身につけ始めていることに気づく。これまでまったく気にとめなかったことに気づき始めると、不思議だが世界はあらためて新鮮に見えたりする。

展覧会のタイトルは大西さんの発案だ。「地に立つ、宙に浮く」は、二人の人としての違いであり、その作品の在りかたの違いである。武蔵美を卒業して十数年が経った二人だが、今回の展示にあたって、初めて互いの制作に関して話し合うことになった。その話し合いのなかで、お互いの選ぶ言葉や考えかたがずいぶん異なっていたりして、二人の間には驚くほどの違いがあることに気づいた。異質なものに遭遇したと感じた彼女はこのタイトルを思いついた。しかし、この二人の違いは、絵画が包摂する表現の違いや驚きや、その広がりそのものだと私は感じる。

大西さんの作品は通常の木枠を用いるが、そこに貼ってある絵画の支持体となる布は独特の表情を持っている。絵具はごく薄く、布もすでに破れています。透明だったり、やっと平面を保っているものもある。一方、庄子君の作品は、まずその大きさに驚く。彼はごく普通のキャンバスに、大きなストロークで絵具の量を使い、何もかもを捉えようとするかのようにぐいぐいと描いていく。一方は薄く儚くなっていく表現に対して、一方は大きく幾重にも衝動が重なっていく。大西さんは一時期、アトピー性ステロイド皮膚炎になった。この体験が現在の彼女の表現の一部を成しているかもしれない。絵画を描く支持体となるべき布が、傷口を覆う包帯やガーゼの表情を持っているように見える。痛々しさを感じる一方で、不思議なことに彼女の大型の作品からは、痛みではなく一種の爽快を感じるのである。彼女にとって絵画は、自分の身体そのものであり痛みとともに存在しているように思えるが、同時にその意志はすでに身体を脱却して、明るい絵画の可能性を目指しているようだ。庄子君の作品は、生活のなかからモチーフを得て絵画を掴み取っていく。彼の制作態度は一貫しており、オールオーバーなバランスと、石をノミで削り取る石工のような方法で、イメージを解体しながら捉えていく。イメージへの説明を拒み続けることが、逆に見る者の視覚に像を結ばせようとする強いエネルギーになっている。

このように対極的な二人の作品であるが、どちらの方法も絵画を描くという大きな行為のなかに包摂されている。それぞれが表現活動の持つ根源的な力の表出であり、「地に立つ、宙に浮く」というこの新鮮な二人の対比を、会場で見てみたいと思う。



庄子和宏 title: 岩上の入 size:164x164cm 油彩・キャンバス 2021

庄子和宏 | Kazuhiro Shoji

1980年 東京都生まれ

2000年 文化学院美術科卒業

2003年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業

-Solo Exhibition-

2021年 コバヤシ画廊 (東京)

2020年 コバヤシ画廊 (東京)

2019年 コバヤシ画廊 (東京)

2018年 コバヤシ画廊 (東京)

2015年 世田谷区民ギャラリー (東京)

2013年 コバヤシ画廊 (東京)

2012年 コバヤシ画廊 (東京)

2009年 アートトレイスギャラリー (東京)

2008年 コバヤシ画廊 (東京)

2007年 コバヤシ画廊 (東京)

2006年 アートトレイスギャラリー (東京)

2004年 アートトレイスギャラリー (東京)

-Group Exhibition-

2012年 「MESSAGE」コバヤシ画廊 (東京) 以後毎年出品

2012年 「大学絵画」アキバタマビ21 (東京)

2010年 「Art Trace Gallery Group Exhibition」アートトレイスギャラリー (東京)

2008年 「MARKET TRACE2008」アートトレイスギャラリー (東京)

庄子和宏 | Instagram アカウント



庄子和宏 title: 踊るラケット II size:227x362cm 油彩・キャンバス 2020

Gallery of

The Fine Art Laboratory

gFAL